



Roche ロシュグループ

2012年第1四半期 連結決算概要

中外製薬株式会社
取締役専務執行役員 CFO
板谷 嘉夫

2012.4.24

将来見通し

本プレゼンテーションには、中外製薬の事業及び展望に関する将来見通しが含まれていますが、いずれも、既存の情報や様々な動向についての中外製薬による現時点での分析を反映しています。実際の業績は、事業に及ぼすリスクや不確定な事柄により現在の見通しと異なることもあります。

注：本資料の数値は億円未満を四捨五入して表示
増減、%は億円単位で表示された数字で計算

2012年第1四半期 連結決算概要

■ 売上高 903億円 (+5.4%)

- タミフル：季節性の流行により前年比約2倍
- タミフルを除く国内製商品：新製品効果をエポジン、C型肝炎領域の落ち込みと薬価改定影響が打ち消し微減
- 海外：前年に震災影響を受けたアクテムラ売上高が約5倍
- その他の営業収入：一時金の減少により約3割減

■ 営業利益 166億円 (+6.4%)

- 売上総利益は前同水準ながら、コスト節減による販管費の減少により増益

■ 四半期純利益 93億円 (+86.0%)

- 前年は震災影響で特別損失61億円を計上

損益の概要 1-3月実績

【億円】	2011年		2012年		増減	
	1-3月	売上 (%)	1-3月	売上 (%)		%
売上高	857		903		+46	+5.4
製商品売上高	804		868		+64	+8.0
タミフルを除く	762		790		+28	+3.7
タミフル	42		78		+36	+85.7
その他の営業収入	53		35		▲18	▲34.0
営業利益	156	18.2	166	18.4	+10	+6.4
営業外収益	21		11		▲10	▲47.6
営業外費用	10		15		+5	+50.0
経常利益	167	19.5	163	18.1	▲4	▲2.4
特別利益	0		0		+0	-
特別損失	71		0		▲71	▲100.0
当期純利益	50	5.8	93	10.3	+43	+86.0

- 製商品売上高(タミフルを除く)
 - 国内 ▲21億円
 - 海外 +50億円
- タミフル* +36億円
- その他の営業収入 ▲18億円
 - 一時金収入の減少
- 営業利益 +10億円
- 営業外収支の悪化 ▲15億円
- 特別損益の改善 +71億円
 - 特別損失の減少
 - 災害による損失 ▲61億円
 - 資産除去債務影響 ▲10億円

期中平均レート(円)

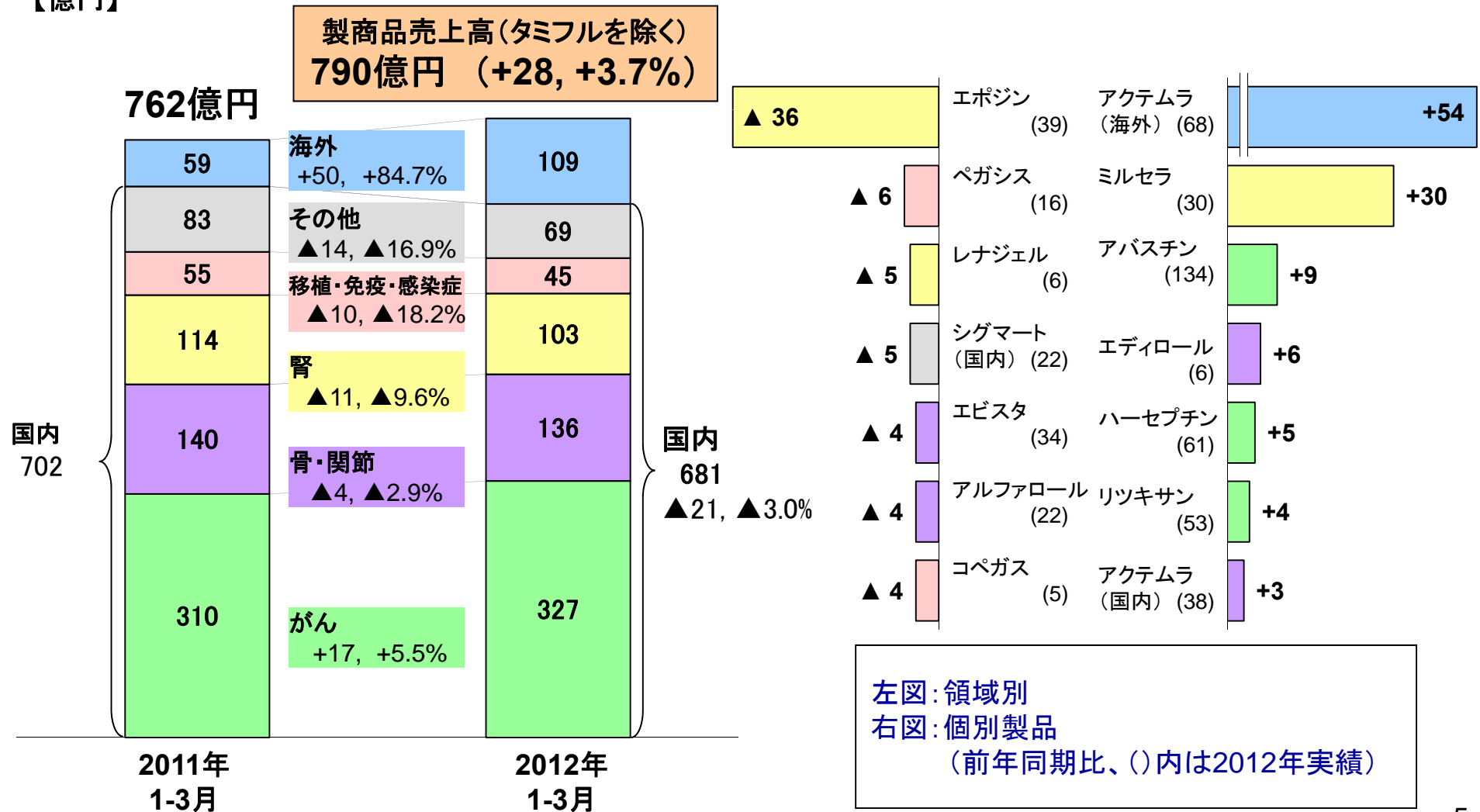
	2011年1-3月	2012年1-3月
CHF	87.30	86.01
EUR	112.36	103.91

* タミフル 内訳

	2011年1-3月	2012年1-3月	増減
通常	37億円	75億円	+38億円
行政備蓄等	5億円	4億円	▲1億円

製商品売上高（タミフルを除く）の増減内訳 1-3月実績

【億円】



タミフルの売上状況

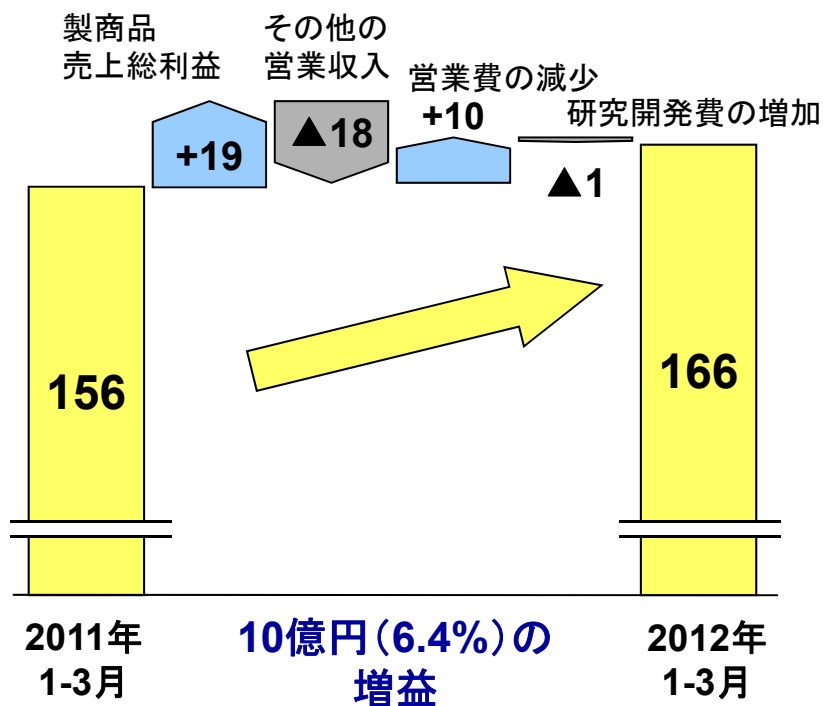
【億円】	決算期売上																シーズン 売上	定点観測数* (百万人)
	2005年12月期		2006年12月期		2007年12月期		2008年12月期		2009年12月期		2010年12月期		2011年12月期		2012年12月期			
	1-6月	7-12月	1-6月	7-12月	1-6月	7-12月	1-6月	7-12月	1-6月	7-12月	1-6月	7-12月	1-6月	7-12月	1-3月	4-12月		
通常	2004-05	232															246	1.47
	2005-06		119	99													218	0.92
	2006-07				37	50											87	1.01
	2007-08						52	14									66	0.66
	2008-09							57	110								167	1.27
	2009-10									252	14						266	2.02
	2010-11											2	41				43	1.26
	2011-12													13	75		88	-
	2012-13															18	-	-
通常	351 (+265)		136 (▲215)		102 (▲34)		71 (▲31)		362 (+291)		16 (▲346)		54 (+38)		93 (+39)			
行政備蓄等	2005-06		2	65													67	
	2006-07				179	189											368	
	2007-08						96	2									98	
	2008-09							11	144								155	
	2009-10									256	106						362	
	2010-11											59	5				64	
	2011-12													28	4		32	
	2012-13															0		
行政備蓄等	2 (+2)		244 (+242)		285 (+41)		13 (▲272)		400 (+387)		166 (▲234)		33 (▲133)		4 (▲29)			
合計	232	120	163	216	238	148	16	68	254	508	120	61	46	41	78	18		
	352 (+266)		380 (+28)		387 (+7)		84 (▲303)		762 (+678)		182 (▲580)		87 (▲95)		96 (+9)			

黄色の網掛けは予想値、()内は前期比

* 国立感染症研究所「感染症発生動向調査」10月下旬から4月中旬(2009-10シーズンは2009年7月初旬から2010年3月中旬)の合計患者数

営業利益の増減内訳 1-3月実績

【億円】



【億円】	2011年 1-3月	2012年 1-3月	増減	(%)
売上高	857	903	+46	+5.4
売上原価	351	396	+45	+12.8
売上総利益	506	506	+0	+0.0
うち 製商品	453	472	+19	+4.2
うち その他の営業収入	53	35	▲18	▲34.0
営業費	220	210	▲10	▲4.5
研究開発費	130	131	+1	+0.8
営業利益	156	166	+10	+6.4

- 製商品売上総利益の増加 +19億円
タミフル、アクテムラ(海外)の売上増
- その他の営業収入の減少 ▲18億円
一時金収入の減少
- 営業費の減少 +10億円
コスト節減
- 研究開発費の増加 ▲1億円

損益の概要 1-3月実績

【億円】	実績	2月1日公表予想		2011年	2010年
	2012年 1-3月	2012年 1-6月	進捗率 (%)	1-3月 /1-6月 (%)	1-3月 /1-6月 (%)
売上高	903	1,955	46.2	47.1	47.8
製商品売上高	868	1,895	45.8	46.0	47.7
タミフルを除く	790	1,812	43.6	44.8	44.7
タミフル	78	83	94.0	91.3	90.0
その他の営業収入	35	60	58.3	73.6	52.9
営業利益	166	365	45.5	44.3	40.2
経常利益	163	370	44.1	46.1	46.2
当期純利益	93	220	42.3	29.2	48.2



Roche ロシュグループ

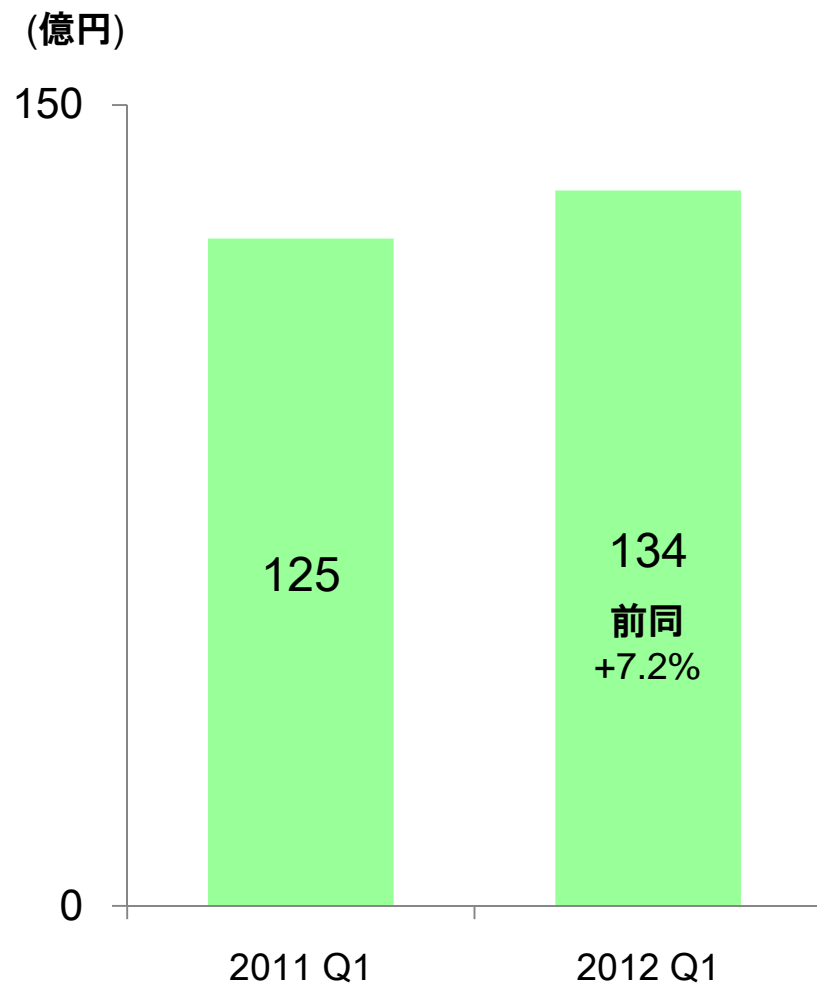
主要製品の状況

中外製薬株式会社
常務執行役員 営業本部長
戸早 正昭

2012.4.24

アバスチン

各適応症ともに想定通りの進捗



<Q1実績>

- ◆ 上期計画進捗率：43.6%
- ◆ 大腸がんでは、シェアを維持
肺がん、乳がんは好調に進捗

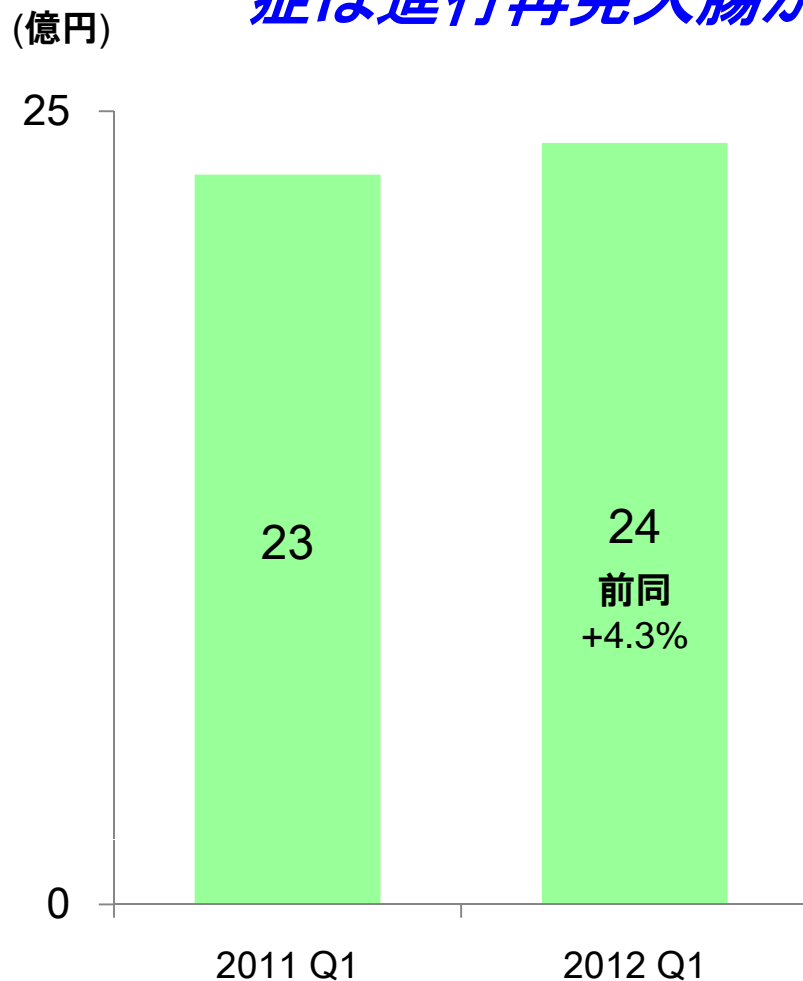
<今後の対策>

- ◆ 適応症毎に施策を実行し計画達成を目指す
 - ✓ 大腸がん：BBP*データを活用し、一次治療シェアアップを図る
 - ✓ 肺がん：安全性と有効性の認知度向上を継続して訴求
 - ✓ 乳がん：エリア講演会を中心に適正使用の為の情報提供活動を積極的に実施

*BBP: Bevacizumab Beyond Progression
1st-line治療でBevericizumabを投与した切除不能進行・再発大腸癌患者に対し、PD後の2nd-line治療においてもBevericizumabを継続投与する

ゼローダ

計画に対して大幅な進捗の遅れ。遅れが大きい適応症は進行再発大腸がん・結腸がんアジュバント



<Q1実績>

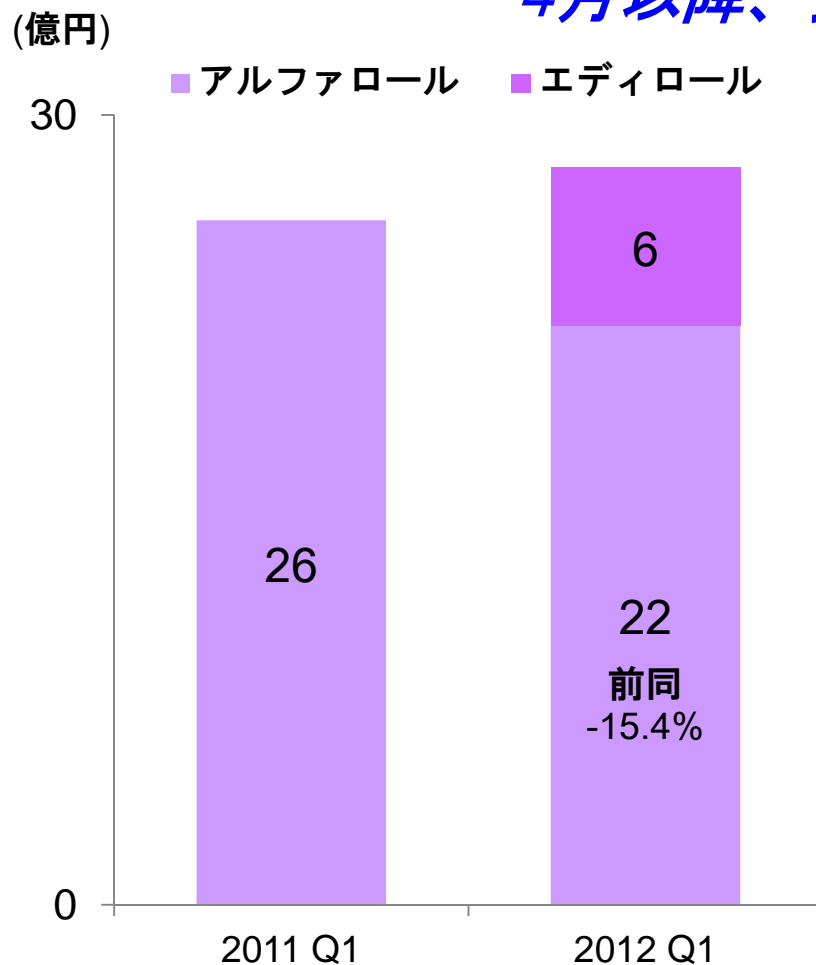
- ◆ 上期計画進捗率：32.9%
- ◆ 結腸がんアジュバントで新規症例の獲得が進まず

<今後の対策>

- ◆ 地域レベルで大腸がん治療ガイドライン浸透の施策の実行により計画達成を目指す
 - ✓ eセミナーの実施
 - ✓ 患者教育用DVDの使用で認知UP
 - ✓ 副作用対策の講演会

エディロール

**Q1までは長期処方制限により売上の伸びは限定的
4月以降、売上拡大を目指す**



＜Q1実績＞

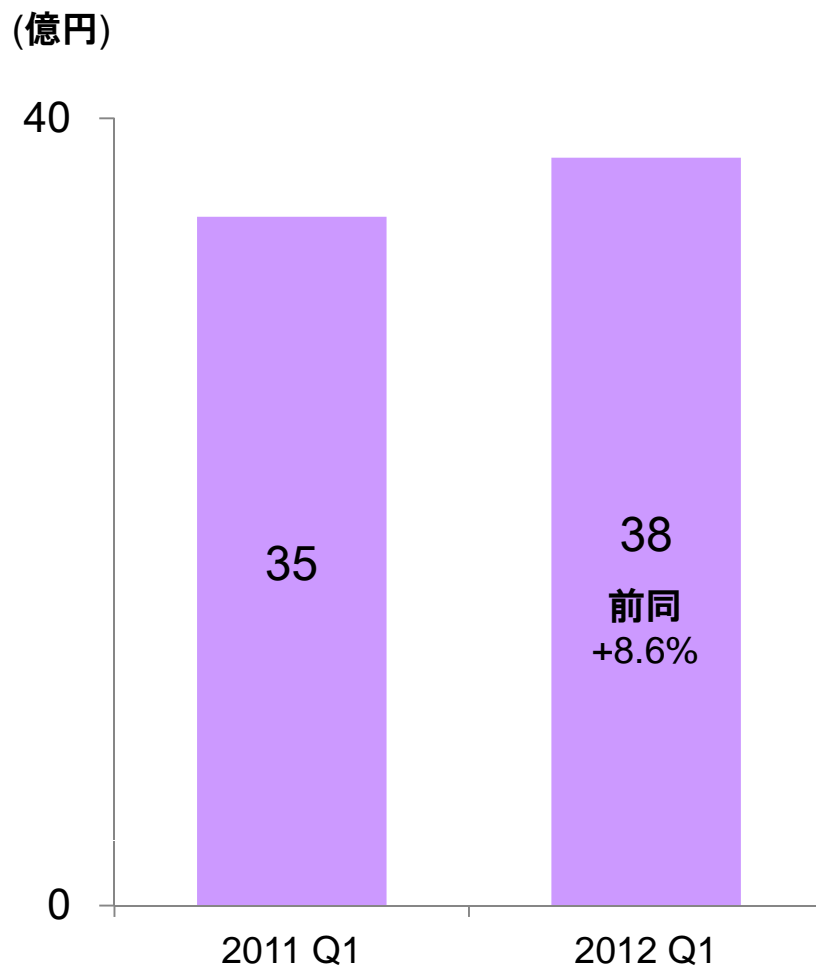
- ◆ 上期計画進捗率：22.2%
- ◆ 4月の長期処方解禁に向け、採用軒数の拡大を実施
- ◆ ターゲット施設への採用は順調に推移
- ◆ ガイドライン浸透のための説明会を実施

＜今後の対策＞

- ◆ 長期処方制限解除にともない、採用・売上の拡大を加速する
- ◆ 既存のビタミンD3製剤からの切替えを図る
- ◆ 継続してガイドラインの浸透を図る

アクテムラ（国内）

順調に売上が伸長



<Q1実績>

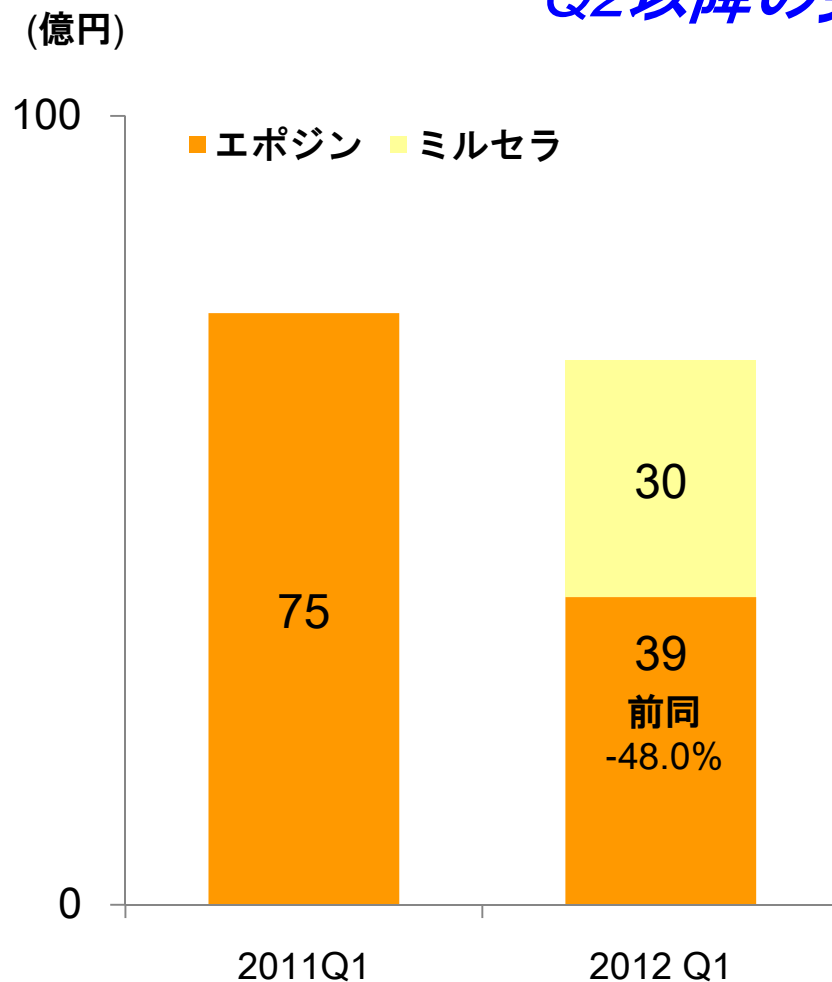
- ◆ 上期計画進捗率：48.7%
- ◆ 昨年に引き続き、IL-6阻害剤の高い有効性を訴求
- ◆ ADACTA試験の結果：ポジティブに捉えられているものの、売上への影響は限定的

<今後の対策>

- ◆ 4月以降再算定の影響を吸収し、成長を持続させる
- ◆ 日本リウマチ学会でのデータ発表
- ◆ 生物学的製剤の中で最も多い演題数
- ◆ IL-6阻害剤の高い有効性、高い寛解率とその持続を引き続き訴求

エポジン/ミルセラ

計画に対して進捗は遅れているものの
Q2以降の売上拡大を見込む



＜Q1実績＞

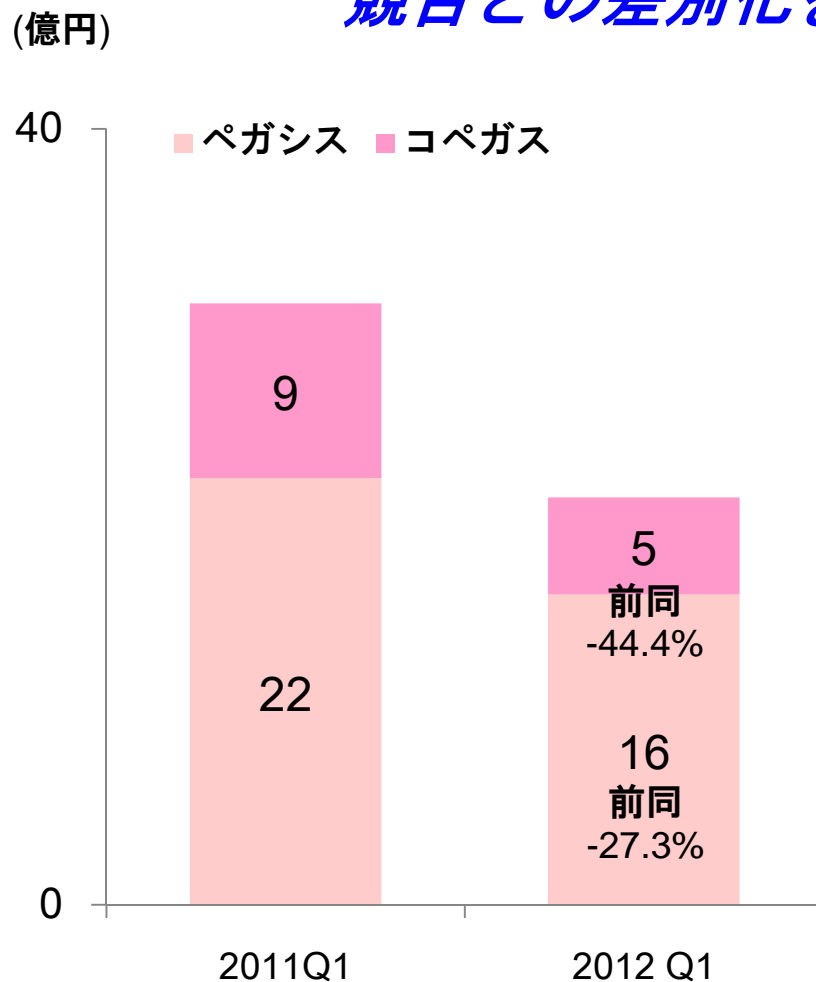
- ◆ ミルセラ 上期進捗率：24.8%
他剤からの切替えを慎重に進めている施設が多い
- ◆ エポジン 上期進捗率：44.8%
ミルセラへの切替えが進まず、競合にシェアを奪われている

＜今後の対策＞

- ◆ ミルセラの4週に1回投与の製品特性を訴求
 - ✓ 使用を推進するデータの論文：7報
 - ✓ 透析医学会での発表：約100演題
- ◆ 保存期での更なるシェア拡大を目指す

ペガシス/コペガス

計画に対して進捗は遅れているものの
競合との差別化を図り計画達成を目指す



<Q1実績>

- ◆ 上期計画進捗率
ペガシス：28.6% コペガス：41.7%
- ◆ C型慢性肝炎：市場拡大が進まず売上減
- ◆ B型慢性肝炎、C型慢性肝硬変：
増加傾向にあるものの計画を下回る

<今後の対策>

- ◆ C型慢性肝炎：
単剤長期処方による売上増加を見込む
- ◆ B型慢性肝炎：
ペグインターフェロンの適応が無かった
HBV市場を加速化し拡大を目指す
- ◆ C型慢性肝硬変：
SVR*が望める患者を特定し積極的な治療提
案を行う

*SVR: Sustained Viral Response
ウイルス陰性化の持続



Roche ロシュグループ

開発パイプラインの状況

中外製薬株式会社
R&Dポートフォリオ部長
高梨 契典

2012.4.24

開発の状況ーがん領域

導入品

RG1273/pertuzumab

乳がん（アジュバント）

2012年4月 P3国際共同治験開始

自社品

GC33（RG7686）

肝がん 2012年3月 P2国際共同治験開始

開発の状況－自己免疫疾患、CNS領域

自社品

アクテムラ（韓国）
関節リウマチ 2012年4月 承認

自社品

アクテムラ（日本）
関節リウマチ 2012年3月 皮下注製剤申請

導入品

RG7090 (mGluR5)
大うつ病
P2国際共同治験に参加を決定

お問い合わせ先：広報IR部

報道関係者の皆様：広報グループ

Tel : 03-3273-0881

e-mail : pr@chugai-pharm.co.jp

担当：相川、河原、宮田、荒木

投資家の皆様：IRグループ

Tel : 03-3273-0554

e-mail : ir@chugai-pharm.co.jp

担当：内田、渡辺、時田、喜多村